

◆ マリンカレッジ

養殖業・パヤオ、観光漁業体験学習

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

漁業の担い手育成を目的とし、水産業改良普及事業ならびに漁業士会活動の一環として、八重山地区における養殖施設見学ならびに観光漁業体験学習を行う。

2. 開催日及び場所

日時：平成24年9月12日（水）

場所：石垣市登野城地区ウミブドウ養殖施設、魚類養殖施設、石垣島南方沖合

3. 参加者

八重山農林高等学校生徒（3年生）7名、教諭2名

4. 協力

沖縄県漁業士会八重山支部

5. 内容

ウミブドウ養殖は比嘉幸秀指導漁業士、魚類養殖は池田元指導漁業士、観光漁業は比嘉康雅指導漁業士に講師を依頼した。ウミブドウ養殖では養殖方法から母藻を挟み込んだ後の成長段階、摘み取りならびに養生、出荷まで教えていただき、製品の試食もさせていただいた。生徒らはウミブドウの栄養体繁殖を利用した養殖であることや、収穫してすぐに出荷するのではなくしばらく養生することに驚いているようであった。

魚類養殖については養殖施設の規模、イケスの構造、飼育管理ならびに魚病対策、出荷までの期間、サイズなどについて教えていただいた他、イケス内の養魚も見せていただいた。普及指導員からは近年取り組まれている水無し活魚

輸送の技術についても簡単に説明した。

パヤオ漁業については、出航前に比嘉康雅指導漁業士から船上での安全指導と観光漁業について、また、パヤオの構造とその集魚効果について説明がなされた。現場では船上に設置された電動釣り機での水揚げを行ったが、パヤオ付近でシビマグロが多くかかるのに対し、100mほど離れるとかかりが悪くなることで、パヤオの集魚効果を理解したようであった。作業時間は2時間30分で、シビマグロ約40本の他、カワハギやサワラ、ツムブリも釣り上げ、生徒達は非常に満足したようであった。



図1. 比嘉幸秀指導漁業士によるウミブドウ養殖についての説明



図2. 池田元指導漁業士による魚類養殖についての説明



図3. 出航前に比嘉康雅指導漁業士から
安全指導と観光漁業に関する説明



図4. 体験漁業を行った現場へのルート
マーカは県設置浮魚礁の位置



図5. 比嘉康雅指導漁業士の指導を受けながら
釣りをする生徒達



図6. 帰港後全員で記念撮影